クビレミドロ（フシナシミドロ目フシナシミドロ科）　*Pseudodichotomosiphon constrictus*

大きさ：高さ 1.5cm、径 3cm。

特徴：糸状の体は円柱状で、ところどころがクビレている。これらが寄り添ってドーム状に生育する。

見られる時期：12 月下旬～ ５月中旬（ピーク；３月中旬～4 月上旬）

分布： 沖縄本島の３海域のみ（泡瀬地区、屋慶名地区、恩納地区）。

生息場所： 細かい砂の干潟で、コアマモやマツバウミジグサと一緒にみられる。

生態： 春先（３月中旬～4 月上旬）に、マット状に密生した群生域がみられる。この時期、ほとんどの株に造精器と生卵器が形成される。春～夏季にかけては藻体に付着した褐色の受精器がみられる。藻体は初夏に枯死し流出するが、受精卵は高水温の夏場に海底で休眠する。水温の低下する秋～冬季の時期に発芽し、細砂やシルトを枝間につけながら伸張する。

希少性：日本固有種。黄緑藻類に属する海産種で、１属１種からなり、藻類の系統と進化を探る上で学術的にきわめて貴重な種である。

環境省レッドデータブック（絶滅危惧ＩＡ類）、沖縄県レッドデータブック（絶滅危惧ＩＡ類）

　写真は、３月４日に、砂質にて観察した。まだ、出始めであり、周囲には数個体が確認された。　周辺のサンゴレキには、ヒトエグサなどが大きく生長し始めていた。
形が丸い緑藻は、他の海藻類とは違っており、干潟歩き中には大変に目立つ。砂質に海流に流されないで、生育する姿はなんとも健気である。